

カボチャ生態調査 (表2)

農家	A	B	C	D	E
蔓長(cm)	408	402	393	312	406
葉面積 (m ²)	2.567	2.585	2.581	2.372	1.080
果実着果数 (個)	3	2	2	1	1
蔓当り果実重 (kg)	4.9	4.2	4.0	2.8	2.8



スライド5

この表は、A～Eの各農家で栽培されているカボチャの蔓長、葉面積、着果数、重量を調べたものです。

これより、10アールでは2トンとなり、このクラスのカボチャであれば、10アール当たり56万生産額は可能ですが、実際は半分程度ですが、それでも生活は可能であります。

環境保全は農家が行うので、農家が豊かでなければできないと考えます。

有機間作栽培と慣行単作栽培の比較（表3）

区別		有機栽培			慣行栽培		
		A	B	C	D	E	F
	作型	サトウキビ スイート ーン	スイート ーン サトウキビ	サトウキビ 血 サトウキビ	サトウキビ	スイート ーン	サトウキビ
A 計 画	生産量 (kg)	1,800	2,267	10,172	2,054	1,200	9,614
	生産額 (万円)	522	709.5	515	595.5	400	265.7
B 計 画	生産量 (kg)	1,510	1,275	10,120	791	175	8,000
	生産額 (万円)	566.8	559.5	492.5	221.2	175	164
B/A 生産量		72.78	56.24	99.49	38.51	14.58	83.21
B/A 生産額		70.27	47.86	95.50	37.15	43.75	61.72

※ 10a 当り 生産額 50 万円以上を目標とした。

結果: サトウキビを主体とした間作が生産量及び生産額ともに高かった

スライド6

これは、慣行の単作と有機栽培による間作を比較したものです。
 環境保全も考えながら農業を行には、10アール当たりの生産額は50万円以上
 は必要です。
 この結果で一番良かったのは、サトウキビを主体とした間作でした。

有機栽培について

- ①圃場の土壌流出を防ぐには
- ②裸地を小さくするには間作をした方が良い
- ③間作栽培は、有機栽培しかない

オボ子や有機資材の違いによる生産量、生産額(10a 当り) (表4)

資材	No.1 キトサン ポリシート ススキ	No.2 木炭 ポリシート ススキ	No.3 刈藁 ペーパーマルチ ススキ
経費 (円)	185,590	207,037	159,045
生産額 (円)	225,920	326,400	170,700
単価 (円)	40,330	119,365	11,652
果面 (㎡)	0.7595	0.7750	0.6532
収量 (kg)	567	1,205	693
Brix	10.05	10.15	9.90

品種：くりゆめか

栽培期間：H22年12月15日～H23年3月10日

スライド7

次に、有機栽培について検討しました。
土壌流出を防ぐには、間作が良く、間作は有機栽培しかありません。
一番良かったのは、木炭・ポリシート・ススキでした。

間作について

- ① 土壌の流出量を少なくする
- ② 圃場の単位面積当たりの生産額を高める
- ③ 作物が生育過程で土壌を全面に覆うまでの裸地部の期間を利用する

有機間作栽培と慣行間作、単作栽培実績(10a)(表5)

作物	有機間作 サトウキビ、カボチャ、大根、キャベツ ニンジン、ジャガイモ、黒菜	慣行間作 サトウキビ、大根、キャベツ ニンジン、ジャガイモ	慣行単作 サトウキビ
生産額	492,300	417,000	164,000
経費	262,613	209,752	135,339
収支	229,689	209,248	28,661

栽培期間：H22年8月25日～23年1月20日

スライド8

土壌の流出量を少なくし、単位面積当たりの生産額を高めるには、サトウキビが全面を覆うまでの裸地期間を利用する間作栽培であると考えました。この表は、有機の間作・慣行の間作・慣行の単作を比較したもので、有機の間作が一番収支が良い結果でした。

間作の仕方

※サトウキビを主体とした栽培

①サトウキビ

- ・側枝苗を利用(4~5枚苗)
- ・株間35~40cm
- ・畦巾1.5m

②カボチャ

- ・苗を利用
- ・栽培巾4.5m(サトウキビの3畦を利用)
- ・株間40~50cm

③キャベツ

- ・苗を利用(本葉2~3枚の苗)
- ・株間40cmチドリ2条植



スライド9

これは、サトウキビを主体とした間作の写真です。
カボチャは2月に植え付けると、5月に収穫できます。